

貨物会社 またしても 低額回答！ 「ベア一律2,000円を実施する」 「低額ベア」回答への抗議と要請を！

社会的にも「大幅賃上げ」が求められる中、公共輸送を担う社員の「やる気」を削ぐものでしかない！

ベアを実施したものの、物価上昇分を超える賃上げ
でなければ社員の生活改善ははかれない！

3月13日、貨物会社は「2025年4月1日以降の賃金引上げに関する申し入れ」(国労闘争申第9号)への回答として、ベアについては2,000円「定額」を実施するとの回答を行った。

2018年以降、貨物会社の賃上げは、「ベア300円」「ベア200円」の実施や「200円の賃金改善措置」、再び「ベア・ゼロ」へと回帰し、2年前は「基本給に定率0.1%(平均300円)の上乗せ。一昨年は定率0.1%に700円を加える回答を行い、昨年は「定率0.1%(平均300円)+1500円」の回答を行った。

かつて18年連続の「ベア・ゼロ」を実施する一方で、最高益を達成し、利益剰余金を積み増しする裏で、社員の生活実態は物価高騰による相次ぐ値上げの中で、苦しい生活実態は何ら改善されていないばかりか、離職問題を含め社員のモチベーションは著しく低下してきている。

「労働協約」に関わる交渉では「企業の発展」と「組合員の生活の維持向上」は「どちらも重要な課題である」との、この間の労使の共通認識からも逸脱した回答と言わざるを得ない。

これまで貨物会社は、「鉄道事業部門の黒字化」「経営の安定化」をはじめ年を追うごとに激甚化していく自然災害の影響を大きく受け、コロナ禍においても「経営課題」を持ち出し低額回答が行われてきた。経営第一により「社員犠牲」で乗り切ろうとする会社経営陣の判断が行われる度に社員・家族の生活は改善するどころか悪化の一途を辿っている。

今回の回答は4年連続の「有額」回答ではあるものの、その内容は極めて「低額ベア回答」でしかなく社員・家族の落胆の声ははかりしれない。

相次ぐ値上げなど物価上昇の下、労働者の実質賃金は年々減少する中、今、25春闘では大手企業は5%を超える「大幅賃上げ」を回答しており、今回の回答は、貨物会社に働く社員や家族の生活改善には到底及ばない！全ての職場から賃経営陣に対して「抗議」の声をあげていこう！

**国労要求17,000円を
支払う体力は十分にある！
設備投資の一部でも社員の賃上げを優先する姿勢を示すべきた！**



「低額ベア回答」への抗議と要請行動
※3月21日(金)正午まで